



令和6年11月22日
山形市立南沼原小学校
学校だより 第7号
文責：校長 石澤 友章



祝 創立120周年

～はらっぱの歴史をつないでいくこと～



11月1日（金）、120周年の創立記念式を行いました。今年は節目の年ということで、PTA 会長（東海林副会長様 代理出席）と元同窓会長 小関利明様をお招きしました。会場にはこの春に解散した同窓会からいただいた新しい紅白幕を張り、お披露目したところです。また、ブラスバンドの記念演奏をご来賓の方々にも聞いていただくことができました。式の中では、児童代表の中嶋隼大さんが、この学校の特色や児童会の取り組み、そして南沼原小の歴史と伝統を受け継ぐ自覚と責任について堂々と発表してくれました。



児童代表 お祝いの言葉（計画委員長 中嶋 隼大さん）

南沼原小学校創立百二十周年、おめでと〜うございます。今年創立百二十周年を迎えたということは、今僕たちが通っている学校には、百二十年もの長い歴史があるということです。この南沼原小学校は、明治三十七年にできました。よく「はらっぱの子ども」や「はらっぱ教室」と言われ、児童会の歌にも登場する「はらっぱ」という言葉は、その頃から受け継がれてきたものです。今はたくさんのおうちやお店がある南沼原地区ですが、昔は畑や田んぼの多い地区だったそうです。わたしたちのネームにもついている校章は、南館・沼木・吉原の三地区を結ぶするしで、どの地区もみんなで協力しようということを表しているそうです。

そんな歴史ある南沼原小学校をさらにより良くするために、今年の児童会スローガンを「明るいあいさつ 守ろうルール みんなが笑顔」とし、全校生で活動に取り組んでいます。このスローガンを全校生に意識してもらうために、学校生活を送る中で誰もが一度は通る、体育館の前の廊下にスローガンを掲示し、みんなで目標を達成できるように頑張っています。具体的には計画委員を中心にして「あいさつの木」や「あいさつ隊」という取り組みを行っています。校舎内だけでなく、通学路に立つてくださっている交通指導員さんや見守りパトロールの方々にも元気な声であいさつをし、校舎内外に響くあいさつはとても気持ちがいいです。

また、南沼原小学校は、全校児童数が約八百人という、山形県内で一番大きい学校です。人数が多いからこそ、いろいろな個性を持った人たちと友達になれます。

ぼくは、南沼原小学校に通っていても楽しいです。なぜなら、一緒に遊んだり勉強したりする仲間がいるからです。そんな仲間たちと安心して学校生活を送ることができる南沼原小学校が、ぼくは大好きです。いつも僕達を支えてくださる先生方や保護者の方々、地域の方々、そしてたくさん仲間たちに感謝の気持ちを忘れずに、これからも学校生活を送っていききたいと思います。みなさんも、より良い学校にするために力を合わせて頑張ってくださいませよ。

ぼくたちは今、多くの先輩たちが築いてくださった長い歴史を受け継いでいます。その歴史に恥じぬよう、自覚と責任をもって学校生活を送っていきます。

式の中で私は「児童会のうた 手と手をつないで」の作曲者からお聞きした誕生秘話を紹介しました。

この歌の作曲は、今から35年前にこの学校に先生としてお勤めされた三森聡さんという方です。三森さんがこの学校に赴任した時、音楽室の片隅に4行ほどの縦書きの歌詞がはられてあり「児童会の歌」とタイトルがありました。しかし、楽譜も音源もなく歌える人はだれもいなかったそうです。そんな中「それなら新しい歌をみんなでつくろう」という話になり児童会の集会委員会が企画して、高学年から歌詞を募集しまし



た。応募された作品から、当時6年生の桜井真美さんの歌詞が選ばれました。それに三森さんが、リズムに乗って楽しく歌えるような現在の曲をつけて出来上がりました。さらに、歌に動きを付けることになり、当時の集会委員が先生方と相談しながら考えた動きを、集会委員が身振り手振りで教えていくことで徐々に「手と手をつないで」が形になっていったそうです。三森さんは、35年たった今もこの歌が、振り付けと一緒に歌い継がれていることにとても驚き、喜んでおられました。考えてみれば、今のようにお手本になる動画や音源など全くない時代に生まれた世界にたった一つのオリジナルソングです。今に至るまでたくさん子どもたちが互いに伝え合い、つなげ合っ、今ここにいる皆さんに、できたときのままの形で受け継がれているって本当に素敵なことだなと感動しました。このように、先輩方の思いや考え方がずっとつながって、今の皆さんに引き継がれてきたことが他にもたくさんあるでしょう。

.....

伝統とは建物や形だけを引き継ぐことではなく、大切にしたいことや考え方をつないでいくことです。それは決して難しいことではなく、目の前のこと一つ一つを頑張っていくこと。それが十年後、三十年後（150周年！）の後輩たちに必ず受け継がれていくはず。保護者・地域の皆様にも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

「いつもありがとう」の心を伝えよう ～11/15感謝の会～

今年交通指導員さん、セーフティーサポーターズさん、わくわくぽけっとさん（読み聞かせ）に加え、ペットボトルキャップを地域で集めて学校のJRC活動に協力して下さっている金澤一男さんをお招きしました。児童代表のあいさつに熱心に耳を傾けてくださり、花束や手紙に加え全校合唱による歌のプレゼントをたいそう喜んでくださいました。「安全・安心に、豊かな心で楽しい学校生活を送ってほしい」という、お招きした皆様から語っていただいたメッセージを子どもたちもしっかりと受け止めていました。



児童代表 感謝の言葉（計画副委員長 永沢碧惟さん）

交通指導員さんとの毎朝のあいさつを通して「今日も頑張ろう」という気持ちになります。ぼくが登校班で自転車とぶつかった時、セーフティーサポーターズの方が駆けつけてくださったことが忘れられません。わくわくぽけっとさんの読み聞かせのおかげで新たなジャンルの本と出会うことができ、ますます本が好きになりました。金澤さんにはペットボトルキャップ回収で10年以上もご協力いただいています。このように、ぼくたちを支えてくださるみなさん、いつも本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願いします。

第2回学校運営協議会（11月7日開催）熟議よい

「地域学習◇」と「自立登校と安全意識☆」を熟議題とし、様々なアイデアが出されました。これからの教育活動や来年度の教育課程編成に生かしてまいります。その一部を紹介します。

- ◇各学年でコロナ禍ではできなかった、地域とのつながりのある学習に取り組めるようになった。
- ◇南沼原地区は地域の歴史や地形、地層の学習に適した場所であり、講師を担える人材もいる。
- ◇地形や地層、防災・避難所、いのちの学習などをつなげるダイナミックな総合的な学習の展開も考えられる。
- ☆登校班での下学年を気遣う高学年の意識が素晴らしい。
- ☆逆に、下の学年が人任せになる傾向がある。一人一人の安全意識の向上のための取り組みが必要。
- ☆日替わりで並び方を変え班長を体験するなど、責任あることを経験させるのはどうか。そのうえで自立登校のお試し期間を設定するなど、段階的に実施するとよいのではないかと。
- ☆例えば、通学班長引継ぎ期間や交通安全県民運動期間などと合わせて実施するなど、効果的な方法を検討していきたい。